

さがみ

No. 85 Jan. 2010

主要目次

洋館と読書……………	1
特集 点字の展示について ……	2
学生による選書ウィークを開催しました…	3
データベース活用のすすめ……………	4
図書館大会・データベースフォーラムに参加して…	5
ブックトーク……………	7

洋館と読書

稲田 深智子

ひとはよく子どもに「本を読みなさい」というが、それを聞くとわたしはむなしい気持ちになってしまふ。そう思うわたしは、落ち着きがなくじっとしてられない子であった。小学校での読書の時間にクラスのみんで図書室に行ってもわたしはすることがなくてボ～としていて、本に夢中になってかまってくれない友だちを不思議な気持ちで眺め、はやく読書の時間が終わらないかと思っただけである。

そんなわたしであるが、いまでも忘れられないのは、三鷹のわたしの家の近くにあった洋館、有三青少年文庫(いまでは記念館)である。それは、あの「路傍の石」を書いた山本有三の自邸だった。彼は、1950年代に太っ腹にも広大な敷地と洋館を東京都に寄附し、小さい子どもたちの本読み場として提供したのである。武蔵野の雑木林にイギリス風の洋館、アーチ型の玄関を入ると応接間があり暖炉がある。暗くて重厚な室内。スタンドグラスの光が射しこむ階段室。大理石のテラス。わたしが通った1960年代の頃は、周りには木造平屋住宅ばかりであったから、森の中のお屋敷の門を入ると別世界が広がっていた。そこでは、ふだんは鼻をたらしして空き地を駆け回って遊び、椅子にじっと座ってられないわたしも、小学校の悪ガキ仲間も黙る贅沢な空間であった。窓辺で本を広げて見上げると外はうっそうとした木々の緑だった。いまから思うと、わたしは、たぶんそこで静かに本を

読む「格好」をしていたのだと思う。素晴らしい環境に包まれてうっとりしながら、深窓の令嬢風に上品に振舞うわたしは、いま思い返すと単純すぎておかしいが、環境の力は大きいと思った最初の体験であった。読書は、神聖な空間でおこなう神秘的な儀式なのだ、と子どもながらに深く納得したのだった。自分の家のようにくつろげて、しかも満ち足りた空間を与えられた喜び、子どもなのに大人以上に大切にもてなされた喜びはいまでも忘れられない。このような思い出が、その子のこれからの生きる力となるのだと思う。子どもにこそ贅沢な空間を、である。



いまのわたしの読書のほとんどは、寝ながら読むというもので、あの神秘的な儀式からほど遠くなってしまったが、趣味は読書といえるほど、さまざまな分野の本を読むようになった。その根っこはあの空間だと思っている。本から眼を離し、暗い室内の縦長の窓から見上げると木々の葉が揺れている。そのため息が出るような美しい空間がわたしの読書の出発点なのだと思う。

わたしが建築の設計の道に進んだのも、思い返せば、この体験が大きいのかも知れない。「本を読みなさい」というなら、その前に子どもにこそ静かで贅沢な環境を与えることがなによりも必要なのである。

(生活デザイン学科准教授・図書館運営委員)

特集 『点字の展示』について

附属図書館では、春に開催した特集『生誕100年の作家たち』に続き、秋は6点点字法を発明したルイ・ブライユの生誕200周年にちなみ、10月13日(火)～12月25日(金)の期間、附属図書館2階展示コーナーに於いて「点字の展示」と題して、ルイ・ブライユという人物や点字に関する書籍について展示しました。以下に概要を紹介します。



図書館2階展示コーナー

◆ルイ・ブライユについて

父・シモン、母・モニカのもと、4人の子の末子としてフランスに生まれました。4歳の時に失明しましたが、村の小学校で一般の児童と共に指導を受けた後、パリ盲学校に入学し、助教師・正教師と任命を受け、1823年には現在主流となっている6点点字法の原型を考案しました。その後健康を害しつつも、死に至るまで校内に居住しながら学校に籍を置き、1852年1月6日、43歳でこの世を去りました。



ルイ・ブライユの肖像(切手)



公開中の点字資料

◆点字資料について

点字資料の印刷法にはいくつかの種類がありますが、このうち本学では、エンボス加工や盛り上げ加工により点字本として作成された、調理レシピや講演集などの資料を所蔵しています。

上記画像の資料は完全に点字部分と文章部分が分かれています。本学ではこの他にも通常印刷された資料に特殊な点字加工が施され、健常者も視覚障がい者も同様に利用可能である、ユニバーサルデザインな形状の資料も展示しました。



館内の書架の様子

◆読んでみませんか？

本学のホームページで紹介されておりましたが、子ども教育学科では『手話・点字』の授業を取り入れ、障がいのある子どもたちも含めた幅広い理解を持つ教育者の育成を目指し、秋学期に『点字の基礎』という授業が開始されたようです。本学には、点字の歴史や読み方、視覚障がい者の立場から書かれた本以外にも、パソコン点訳について書かれた物なども取り揃えています。また、点字とは少々異なりますが、盲導犬関連の本も所蔵しています。授業に関係のある方も無い方も、一度図書館でこれらの資料を手に取り、目を通してみませんか。

(閲覧係 山崎愛理歌)

学生による選書ウィークを開催しました

2009年11月16日(月)から20日(金)まで、「学生による選書ウィーク」を開催しました。

「学生による選書ウィーク」は、後援会より助成していただいた予算を利用して、学生が利用したい本を学生自ら選んでもらおうという趣旨の元開催したものです。書店よりお借りしたおよそ370冊の本を図書館内に置き、実際に学生が手に取りながら本を選び、気に入ったものがあれば、学年・学科と一言コメントを葉に記入して、本に挟んでもらう形式にしました。



【学生が本を選んでいる様子】

就職・資格関係の書籍や趣味・旅行に関する書籍など様々な分野のものを用意しました。その中でも特に人気があったのは、お料理関係のレシピ本や就職・資格関係の本でした。

今回選ばれた中で1番人気のあった書籍は、「かわいい写真を撮る方法。」(成美堂出版)でした。



写真の撮り方というと、メディア情報学科や生活デザイン学科の学生から人気があるのかと思っていたのですが、実際は全て日本語日本文学科の学生からの推薦でした。この本は既に図書館にあります。かわいい写真の撮り方をマスターして、日常生活の中の「かわいい」瞬間を写真に残してみてもいいでしょうか？お気に入りの写真がたくさん撮れたら、図書館で展示会を開くこともできます。図書館の本を利用して、楽しい学生生活を過ごしてみてもいいがですか？

2番めに人気のあった書籍は、「U-CANの管理栄養士これだけ！一問一答集」(自由国民社)でした。



管理栄養士国家試験合格を目指す学生たちの意気込みが感じられる結果となりました。

3番目に人気のあった書籍は同票で以下の通り。

- ・「はじめての新TOEICテスト全パート教本」(旺文社)
- ・「やさしい素材でつくるナチュラル小物とアクセサリ」(成美堂出版)
- ・「カップケーキパーフェクトブックー最高にかわいい!」(講談社)
- ・「決定版 人気のおべんとう」(学習研究社)

その他にも、たくさんの書籍が選ばれました。既に貸出ができるようになっていきますので、ぜひ皆さん、図書館の本を利用してください。

(司書 中戸川陽子)

データベース活用のすすめ

1. はじめに

本学では今年度新たに追加するものも含めると、14種類の有料のデータベース（以下「DB」という。）を契約している。また、インターネット上に無料で公開されているものの中には、本学学生や教員にとって有用なものもある。ここでは図書、研究論文、雑誌・新聞記事などのいわゆる文献情報を探索するためのデータベースをいくつか紹介し、活用をすすめたい。

2. DBを探するには

調べたい分野にどんなDBがあるのかを知るためには、まず本稿でも参考にしたガイドブックがある。司書課程を受講する学生だけでなく、すべての学生が文献探索をする際に知っておくべき情報が盛り込まれている。また、国内で作成され、ネット上に無料で公開されているDBを探すためのDBがある。その一つに国立国会図書館のホームページにあるDnaviがある。ここには現在約13,000件のDBが登録されている。

3. 図書を探するには

図書を探すには、アマゾンドットコムに代表されるオンライン書店のサイトで検索する方法があるが、より詳しい記述があり、また、本学図書館の所蔵検索（OPAC）との連動が可能なBOOKPLUSを紹介したい。昭和元年以降に出版されたものが検索できるが、特に1986年以降のものは、要旨・目次、小説のあらすじからも検索が可能となる。特筆すべきは、個々の検索結果の右端にある「相模女子大学OPAC」をクリックすると、瞬時に本学OPACの検索結果が表示されることである。本学に所蔵があれば、図書館で貸出を受け、なければ購入のリクエストを出すということがスムーズに行える。

4. 研究論文を探するには

(1) 全般

まず、国立情報学研究所(NII)が作成するCiNii(サイニイ)がある。学術雑誌、各大学が発行する紀要に掲載された研究論文が検索できるDBであり、本原稿執筆時点で、約1250万件の論文の書誌データ(著者、論文タイトル、収録雑誌名等)が収録されている。最近では誌面を画像データとして登録している

ものも増えており、書誌データだけでなく、論文そのものがこのDBから入手できるものも増えつつある。本学の紀要も平成16年度版から電子化し、このDBに登録している。

(2) 科学・ライフサイエンス系

冊子体として長年購読してきた「医学中央雑誌」「科学技術文献速報」のウェブ版のDBとして、医中誌WebとJDream IIがある。特に栄養科学部、栄養科学研究科の学生・院生にとっては必須のDBであろう。医中誌Webには約5,000誌の雑誌に掲載された約700万件の論文が収録されている。JDream IIには前述の「科文速」のほか、医学・薬学系の論文も合わせて5100万件以上が収録されている。

5. 一般雑誌・新聞の記事を探するには

学術雑誌ではない、いわゆる一般雑誌や新聞に掲載された記事を検索するDBとして、以下のものを紹介したい。①Web OYA-bunko、②雑誌記事索引集成DB、③日経テレコン21、④ヨミダス歴史館、⑤lexis.com(レクシスドットコム)である。①は大宅壮一文庫が独自に作成した一般雑誌に掲載された記事の索引300万件が検索できるもの。②は明治期から現代までの雑誌記事が検索できるもの。③は三大紙、日経新聞、地方紙等の新聞記事やビジネス誌の記事、企業情報等幅広い検索ができるもの。④は読売新聞の明治7(1874)年の創刊号から現在までの1000万件の記事が検索できるもの。⑤は米国等の法律情報のDBであるが、それ以外にも英字新聞・英字雑誌の記事、CNNの放送原稿の検索が可能である。このうち、③については、図書館内のPCからのみのアクセスとなる。また、⑤は利用希望があれば一人ひとりにIDを発行する方式となる。③、⑤を利用する際は図書館に問い合わせしてほしい。

6. おわりに

国会図書館および日経テレコン21以外のDBは図書館ホームページ上から簡単にアクセスできるので、在学中にとことん利用して、DBに慣れ親しんでほしい。

【参考文献】

大串夏身『チャート式情報アクセスガイド』青弓社、2006

(マネージャー 小田切良友)

全国図書館大会・データベースフォーラムに参加して

2009年10月29日に国立国会図書館でおこなわれたデータベースフォーラム及び30日に開催された全国図書館大会に参加しました。

国立国会図書館でおこなわれたデータベースフォーラムでは、国立国会図書館が提供する様々なデータベース事業についての説明がおこなわれました。数年前までは国立国会図書館まで足を運ばないといけませんでした。最近では多くの資料が電子的に公開されるようになりました。貴重な資料や国会関連資料なども無料で閲覧できるものが多くあります。特に近現代に興味のある学生さんや、政治に興味のある学生さんにとっては面白い資料となっていますので、ぜひ活用してみてください。

国立国会図書館 <http://www.ndl.go.jp/>

また、国際子ども図書館のホームページでは「絵本ギャラリー」が設けられており、18世紀から1930年に至るまでの日本と欧米の絵本の画像だけでなく童謡などの音声も併せて楽しめるようになっています。興味のある方は、ぜひのぞいてみてください。

国際子ども図書館 <http://www.kodomo.go.jp/>

データベースフォーラム終了後に開催された図書館見学会では、普段利用者は入ることのできない書庫の見学をしました。日本最大の図書館の書庫は非常に興味深く、貴重な体験となりました。

30日におこなわれた全国図書館大会は、館種を問わず日本中から図書館員が集います。全体会において図書館界の1年間の動向や今後の司書課程についての説明や講演がおこなわれ、午後からは分科会となりました。私は、以前IFLA（国際図書館連盟）のソウル大会で見学した高麗大学図書館が非常に印象的だったため、「躍進する韓国の図書館に学ぶ」をテーマとした第10分科会に参加しました。韓国は非常に日本に近い国ですが、国民による図書館のとらえ方、行政、司書制度とどれをとっても日本とは大きく異なることに驚かされました。韓国は文化政策の一環として図書館をとらえており、図書館に非常に重きをおいています。日本では、勉学の中心に図書館があるはずなのに軽んじられる傾向があるように感じます。よりよい図書館作りのために、努力しなければならないと感じました。

（司書 中戸川陽子）

図書館総合展に参加して

2009年11月10日から12日までの3日間、パシフィコ横浜において図書館総合展が開催され、閲覧係3名が交代で参加しました。

図書館総合展は名前の通り、様々な図書館関係業者がブースを設け、製品紹介やユーザーとの意見交換などをおこなうものです。また、それだけではなく、多くのフォーラムが開かれ、日本だけに留まらず世界の図書館情勢や先進事例などを学ぶことができます。貴重な学びの機会でもあります。今回は、私が参加したフォーラムの中から特に印象的だったものをいくつか紹介したいと思います。

1つめは、風山村が主催した「紙を識（し）る」というフォーラムです。最近図書館に所蔵している貴重書について考える機会が多いので、「和紙」というものに非常に興味があり参加しました。その中で紙の繊維について学んだり、学生のころ司書課程の授業で習った羊皮紙や生のパピルスなど貴重なものを実際に触らせていただくことができ、とても感動しました。また、実際に生の樹からどのように紙を生成するのかという工程も見せていただき、紙の奥深さを知りました。更に、実際にできあがった和紙を触ってビックリ！紙の目にさからうと、手で裂くことすらできないほどの丈夫さ。和紙で衣装や傘などの日用品が作られていたのも非常に納得のできるものでした。日常に溢れている紙について知る、非常にいい機会となりました。

2つめは、丸善主催の「学習の“場”としてのラーニング・コモンズ」というフォーラムです。このラーニング・コモンズについては、以前ワシントン大学を訪れた記事の中でも紹介していますが、図書館はただ資料を保管しておく館（やかた）ではなく、利用者に快適な空間を提供したり、資料を収集・加工・発信する場所であったり、学生生活をサポートする場でもあるという、とても大きな考え方です。本学の図書館はまだこのような状態にはなっていませんが、今後他大学の事例などを参考にしながら、利用者の皆さんがもっと使いやすい図書館を作っていくためのアイデアをたくさん得ることができました。今後、これらのアイデアを活かして、図書館の改善をしていきたいと思っています。

（司書 中戸川陽子）

「2009年度研修分科会に参加して」

今年度、私立大学図書館協会東地区部会研究部主催の研修分科会に参加した。分科会というのは、協会に加盟する大学図書館職員が参加し、テーマ別に研究・調査を行うもので、2年間毎月1回研究部会が開催され、研究分科会報告大会にてその活動報告をしている。しかし、近年、職員数の減少等の理由により、13ある研究分科会は休会中のものもあり、活動・存続が危うい現状にある。そんな中、研究部に新たに発足されたのが、研修分科会である。

研修分科会は1年間で、図書館での職歴が浅い人を対象とし、年4回開催された。研修分科会の参加者は27名で、私のように他部署から異動して間もない人や、図書館勤務経験はあるが、他部署に異動してまた戻って来た人等で構成されている。

全4回の研修は、1回目「収集」、2回目「大学図書館サービスの新たな展開」、3回目「目録世界の新たな動向」、4回目「ラーニングコモンズ」と、各回毎にテーマがあり、NPO法人の大学図書館支援機構の方がコーディネーターを務め、それぞれの回のテーマに合った講師の講演を聴いた。講演後には講演内容に沿ってグループ討議等が行われた。

私は現在閲覧業務を担当しているが、研修分科会の研修内容は幅広く、大学図書館が置かれている現状の把握や今後の動向等を知る良い機会となった。図書館界のことを網羅的に学ぶには年4回は少ないようにも感じるが、各回で事前課題があり、研修当日以外にも学ぶことができた。

この研修分科会の活動報告が12月15日の研究分科会報告大会で行われ、全4回の研修内容を研修分科会の代表4名が発表し、私は3回目の「目録世界の新たな動向」について発表した。

この研修分科会を通し、各回で講演をさせていただいた講師の方々の貴重なお話が聴けたこと、他大学の図書館の方と情報交換の機会が得られたことで、大学図書館の実情や大学図書館職員に求められていることを知ることができ、大変有意義であった。

この研修分科会を企画・運営されたNPO法人の大学図書館支援機構の方々のお蔭で、今の大学図書館の運営が支えられていることに深く感謝したい。

(閲覧係チーフ 古越奈央)

平成21年度 主要購入資料紹介(2)

平成21年10月以降の図書館運営委員会において、購入が決定された資料の中から紹介します。

Encyclopedia of Library and Information Sciences
3rd edition (図書館情報学百科事典第3版)

全7巻 CRC Press

本学で所蔵している第2版の刊行から6年を経ての改訂版です。図書館学のみでなく、情報に関するあらゆる学問分野の必須レファレンスとして知られる事典です。世界各国の図書館事情はもちろん、電子ブック、バーチャル博物館、コンピュータを介した通信システム等の記述もあり、幅広い内容となっています。図書館情報学・メディア情報学研究者および同分野の卒論生に役立つものとして購入が決定されました。

上記資料とは別に、毎年秋に新たに購入する雑誌を図書館運営委員会において決定しています。以下は平成21年度新規に購読が開始された雑誌名です。

栄養学レビュー、ヒューマンニュートリション、
医と食、社会福祉、Knowledge organization、
Explore : the journal of science and healing、
Medical anthropology quarterly、
Sociology of health & illness

図書館1階カウンター近くに、今年度より配置されていますDVDコーナーは皆さんも良くご存知のことと思います。入館ゲート側には最新の物を含めた映画のDVDが排架されています。でも、もしかしたらその裏面は覗くことも少ないのではないのでしょうか。では、そこにはどんなものが有るのかと言いますと、チョッと堅苦しいかと思われる物や、授業或いは実習に役立つ物などが配置されています。その中で今回二点ほどお勧めのものをご紹介します。「ジョエル・ロブションのシンプルフレンチ」と「世界・豪華鉄道の旅」です。前者は、世界的に有名なフレンチのシェフの料理番組で、料理の内容もさることながら見ていて大変楽しいものです。後者のほうは、憧れる方も多い豪華寝台列車の様子が行程の景色と共に紹介されています。どちらも大変夢の有る映像の世界です。

(総務係チーフ 清水暁美)

ブックトーク 25

流線型シンδροーム

原克 紀伊国屋書店 502 || H

本書は、デザインや美術の専門書でも、技術史・工学史の類でもない。副題に「速度と身体の大衆文化誌」とあるように、「流線型」をテーマに綴った、20世紀初頭から約30年間の米国・ドイツ・日本の文化史である。読者は、大量の楽しい図版と、平易な文章に迎えらるることになる。難解な専門用語も数式も皆無なので、気軽に手にとっていただきたい。手塚治虫の漫画に繰り返し登場した未来の世界のように、流線型は、「洗練された」「新時代の」物の象徴となっていく。これが、それぞれの国の文化や政治状況、社会問題に如何に影響され、「流線型イメージの神話圏」が作り上げられていったのか。多くの危うさをはらんだその変遷を、著者は、当時の大衆向けの雑誌を随所に引用して、読み解いていく。

米国では、船や機関車、自動車などの乗り物に、流線型のデザインを熱心に取り入れていった。抵抗や摩擦を計算した結果だけではなく、スピードが出ます、合理的です、というイメージ作戦である。これが大衆に定着すると、ゴルフボールの凹凸から建物、ファッション、品種改良によるトゲなしサボテンへとエスカレートし、人間社会における「差別」を煽る「選別」「淘汰」の風潮と、割符の様に重なり、結びついていってしまう。

ドイツでは、ナチスの強調する科学技術の力を主張し誇示する為に、流線型イメージが大きな役割を果たす。米国の様に、剥き出しの優生学礼賛ではないが、ドイツこそ最高峰であり、他国は全て劣っているというナチス政権の国粹主義の下で多用される流線型イメージは、米国と全く別の文化圏にありながら、同じ様に、その排外的なイデオロギーと癒合してしまう。

最終章で取り上げられる日本では、小題の「記号の帝国ニッポン」「のよなもの」などが表す通り、思想にも科学にも言及せず、形容詞と比喩表現を並べて大衆に流線型イメージを拡散させる、流線型の「流行語化現象」の様子が追われている。軽やかな「記号の戯れ」に満ちたこの国をどう評価するかは、読者のあなた次第である。 (閲覧係 森悦子)

ブックトーク 26

戦場に残された日記 ガダルカナルから帰還した「魂のタイムカプセル」

勝見明 プレジデント社 916 || K

突然だが、「日記」と聞いてあなたはどんなことをイメージするだろうか。それは、自分の気持ちを記しておくもの、日々の出来事を書きとめておくもの、などさまざまであろうが、いずれにしても「日記」は現在では私たちにとってごく自然なものとして存在している。しかし、少し前の時代には、現在とは違う側面を持った「日記」が存在していたのである。

戦争と「日記」、一見すると無関係のように見えるが、実は大きく関係しているのだ。太平洋戦争中、米軍は軍事的な情報を得ることを目的として、戦地で日本兵が所持していた「日記」を捕獲し、解読していた。そしてそれらの「日記」は全てではないが、今も当時のまま残されているという。この本には、それら「日記」のいくつかが当時の状況と共に記されているのだ。そこには、妻や親など家族への思いを綴ったものから、遺書のようなものまで、さまざまな日本兵たちの思いが込められている。また、「日記」だけではなく、日本兵の家族からの手紙も記されている。これらをひとつずつ読んでいくと、戦争というものに対して、今までとは違う、新たなイメージが浮かんでくる。

太平洋戦争については学校の歴史の授業で習うので、多くの人を知っているだろう。しかし、本当に知っているのだろうか。正確には知ったつもりになっているのではないだろうか。「いつ、どこで、どんな出来事があった」ということを教科書や先生の話でなんとなく知ってはいても、それらは表面的であり、出来事の一部に過ぎない。それだけではなく、当時の人々の気持ちや感情といった内面の部分を知ることが必要なのではないか。

この本に書かれていることはすべて真実である。戦争の中で生きた人々が、何を思い、何を感じていたのか。今を生きる、戦争を知らない私たちが知るべきこと、知らなくてはならないことがこの一冊には詰まっている。ぜひ一度読んでほしい本である。

(社会マネジメント学科2年 今野照美)

LIBRARY CALENDAR

1							2							3							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
					①	②		1	2	3	4	⑤	⑥		①	②	③	④	⑤	⑥	
③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
⑩	⑪	12	13	14	15	16	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	
17	18	19	20	21	22	23	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗
24	25	26	27	28	29	30	㉘							㉘	㉙	㉚	㉛				
31																					

無印:月～金 9:00～20:00、土日 9:00～17:00
 □印:休閉館日 ○印:開館時間短縮日(平日17:00、土12:30まで)
 但し、変更する事がありますので掲示にご注意ください。



◇秋学期定期試験のための 休日開館について

定期試験実施に伴い、試験期間の2週間前から日曜日も開館します。開館日・開館時間については上記LIBRARY CALENDARを参照してください。

◇冬休み長期貸出資料返却のお知らせ

12月7日(月)から学生を対象に冬休みの長期貸出を行いました。返却期限は1月19日(火)です。長期貸出資料の延長手続はできませんので、ご注意ください。

◇春休み長期貸出のお知らせ

1月26日(火)から春休みの長期貸出を行います。長期貸出対象は図書と紙芝居のみで、雑誌・視聴覚資料は対象外となります。貸出冊数は通常と同じです。返却期限は以下のとおりです。長期貸出資料の延長手続はできませんので、ご注意ください。

【在学年次生】

4月15日(木)

【卒業年次生】

3月10日(水)

卒業年次生は返却期限内に全ての資料の返却をしてください。※短期大学部生で本学への編入学が決まっている学生、学部生で本学への大学院進学が決まっている学生は継続して貸出が受けられます。

ただし、全ての資料の返却期限は3月29日(月)です。4月1日以降は新しい学生証で貸出手続を受けてください。

◇展示のお知らせ

図書館2階の展示コーナーでは、2月に短期大学部生活デザイン学科の学生の卒業制作作品を展示する予定です。詳細は館内掲示、ホームページ等でお知らせしますので、是非お立ち寄りください。

— 秋学期12月まで実施のイベント報告 —

◇各種ガイダンス

「卒業論文作成のためのガイダンス(3年生向け)」
 「図書館で就職準備講座」

◇展示(点字の展示)

◇企画展示(スポーツの秋、就職活動を始めよう！)

◇学生による選書ウィーク

※この他、相生祭で行われた古本市に廃棄予定の本や受入しなかった寄贈本を提供しました。

【編集後記】

新年あけましておめでとうございます。

春が待ち遠しい時期となりました。寒さが一層厳しくなる中、秋学期の試験が控えていますね。今年は新型インフルエンザの心配も加わっています。体調管理は周りの方の迷惑になるばかりで無く、ご自分の為にも是非しっかりとしたいものです。

今年度の館報さがみは今号が最終です。来年度からは装いも新たにしたいと考え、スタッフ一同知恵を絞っています。皆様方に楽しんでもらえるものになればよいと思っています。

(清)